

オリーブの木キャンペーン

第 8 期 (2009 年—2010 年) 報告



ジョイント・アドボカシー・イニシアチブ
(パレスチナ YWCA・東エルサレム YMCA)

もくじ

■ 謝辞	3
■ はじめに	4
■ 植樹作業の開始	5
■ 植樹のプロセス	5
■ オリーブ植樹ツアー2010	7
■ ガザ地区におけるオリーブの木キャンペーン	8
■ ベイト・ウマル、キルビット・サファ地区の場合	9
■ オリーブの木キャンペーンの出資者	10
■ キャンペーンの拡大	11
■ オリーブ収穫ツアー2009	11
■ オリーブの木キャンペーンの直接的／間接的な受益者	13
■ 課題	13
■ 将来の行事と計画	14



謝辞

ジョイント・アドボカシー・イニシアチブ (JAI、パレスチナ YWCA・東エルサレム YMCA の協働グループ) は、私たちの活動をここまで推し進めてくださった多くの人々に深く感謝します。パレスチナでのオリーブの苗木の植樹活動を通じて、大勢の出資者の皆様が私たちとの関わりを築いてくださいました。大勢の皆様が “Keeping Hope Alive” (希望を持ち続けよう) をスローガンとするこのキャンペーンへの支援を決意されたことに厚くお礼を申し上げます。友人や協力者の皆様の献身的な活動がなければ、過去 8 年間の成果はあり得ませんでした。

2009 年度の大きな成果は、出資者を募り、オリーブの苗木の植樹活動を支援してくださった次の団体と個人の皆様の強力なサポートにより達成できました。

オリーブの木キャンペーン・オランダ (Cordaid, ICCO, IKV Pax Christi, the National YMCA and The YWCA - <http://www.planteenolijfboom.nl>)、デンマーク・チャーチエイド、スウェーデン YWCA-YMCA、日本 YWCA、日本 YMCA 同盟、ホライゾン (スイス)、Keep Hope Alive アメリカ、Trocaire (アイルランド)、アイルランド長老派教会、アイルランド・メソジスト世界開発救済基金、Evangelischen Jugendwerks in Württemberg (ドイツ)、ラドクリフ長老派教会、北デケーター長老派教会、ウォーターシェッド財団、Denys de la Hoyde、Peter Mann およびすべての個人寄付者の皆様

また、たくさんの書籍、ポスター、ステッカー、オリーブの木キャンペーン・カレンダー、植樹証明書、T シャツ、バッジを配布し、さらに手紙や電話でもキャンペーンの広報のために支援してくださった大勢の皆様に感謝します。

最後に、ここパレスチナに留まって支援をしたり、友人たちにパレスチナへの理解を促し続けている皆様や、オリーブの植樹／実の収穫ツアーへ参加された皆様など、オリーブの木キャンペーンを通じてパレスチナを訪問された多くの皆様に感謝します。世界に限りなく広がっていく協力者のネットワークへ私たちの使命を伝える上で、このキャンペーンを語り・広めることはとても前向きな影響を与えているのです。

「ありがとう」

はじめに

ジョイント・アドボカシー・イニシアチブ (以下、JAI) は、2010 年 3 月までにオリーブの木キャンペーン (以下、OTC) の 8 回目の植樹シーズンを終わりました。植樹シーズンとは世界中のあらゆるところで実施された共働の集大成で、それにはパレスチナに関して人々を啓発すること、パレスチナにおける「正義に基づく平和」に関連した活動への参加を促すこと、さらにイスラエルによる占領を受けているこのパレスチナに植樹するオリーブの苗木に実際に出資することなどが含まれています。これらの共同活動を通じて OTC は、パレスチナ人農業従事者たちによる、その財産や尊厳あるいは土地を守るための闘いへの支援を継続できるのです。

2002 年以降、OTC はイスラエルによる軍事的占領がパレスチナ人に及ぼす破壊的な影響についての認識を高めると同時に、コミュニケーションの輪を広げ、OTC がターゲットとした地域に植樹されるオリーブの苗木への出資者を募るための活動を推進してきました。

土地の接収や、資源、とりわけ水の略奪に関して言えば、ヨルダン川西岸地区やガザ地区のイスラエルによる軍事的占拠や支配がますます酷くなっていることは確かであり、この植樹シーズンにキャンペーンとして乗り越えなければならない社会的・政治的環境は困難かつ複雑でした。

また、今シーズンは、パレスチナ人とその所有地に対するイスラエル人入植者による攻撃がさらに激しくなっていることが目撃されていました。入植者による攻撃は、エルサレムやヘブロン、ナブルス (Nablus)、サルフィット (Salfit) その他のパレスチナ人地区で増加しており、パレスチナ人は、これらの攻撃はイスラエル駐留軍やイスラエル政府の庇護の下におこなわれているものと見ています。

さらにイスラエルによる隔離壁の建設が、それが非

合法であるにも係わらず未だに続けられています。ベツレヘム地区では、オリーブの木を根こそぎにし、壁を建設し、農業従事者を攻撃して、さらには土地の収奪行為に対して抵抗を続けてきたパレスチナ人やイスラエル人、あるいは国際ボランティアの人たちを逮捕することによって、イスラエルは Beit Jala やアル・ワラエ (Al Walajeh) の大部分を併合してきました。アル・ワラエや Beit Jala における併合や土地や環境破壊の背景には、ベツレヘムとエルサレムの間に、大規模な入植地帯を新たに設けることを可能にしようとするイスラエルの思惑があります。Givat Yael (Givat Yael) 入植地は、これらの街を部分的に併呑して、およそ 55,000 人の入植者の本拠地とすることを意図したもので、ヨルダン川西岸地区の被占領地域にすでに居住している 50 万人の入植者に、さらにこれらの入植者が加わることになるのです。

入植計画の地図はこちら:

http://www.poica.org/editor/case_studies/Givat_Yael_07.jpg

困難な事情を抱えた地域であるにもかかわらず OTC は、およそ 1 万本のオリーブの苗木の植樹に成功しました。このうち 8,000 本以上は、世界のさまざまな国々の友人、協力者、その他の皆様のご協力によるものです。 ■



写真: 1967 年以来初めて、オウシュ・グラブ (Beit Safur) に植樹されたオリーブの苗木 (JAI)

植樹作業の開始

植樹の実作業は、例年どおり 2009 年 11 月から、2009 年度中に農業従事者から提出された植樹申込審査から始まりました。審査は、申し込みが多すぎて OTC が対応し切れなかった前年度の申込分についても併せておこなわれました。この審査には、すべての畑を訪れて、その要件とその畑がキャンペーンの基準を満たしているかどうかを評価するプロセスが含まれています。この審査の過程で、前シーズンと同様に次の基準に基づいて畑に優先順位が付けられました。

- ・ その畑で根絶やしにされた樹木の本数
- ・ イスラエルの非合法入植地の拡大によってその畑が接収されてしまう危険度
- ・ 隔離壁からの距離と、ヨルダン川西岸地区内のパレスチナ人所有地に壁が建設されることによる土地接収の危険度
- ・ 畑や苗木の世話をする上での農業従事者の意志と努力
- ・ 畑の受け入れ能力に比較して、十分な数のオリーブの苗木が入手できるかどうかについてのキャンペーン側の能力
- ・ 土地の所有権の証明
- ・ 申し込みの日付



写真：
ベツレヘム近郊のベ
イト・イスカリアで植
樹されたオリーブの
苗木 (JAI)

また、キャンペーンでは各地の連絡員や農園作業者の提案によって、ベツレヘム地区 (キャンペーンの本拠地) 以外のヘブロンやラマッラ、ガザなどにも OTC の調停所の候補地を選びました。

この評価期間中にキャンペーンの活動に加わった農業の専門家が、樹木や灌漑システム、肥料その他の必要なものについての観点から、選出されたそれぞれの畑に対して何が提供されるべきかを決定しました。OTC は、新たに植樹された苗木を駄目にしてしまう可能性がある、主に乾燥した夏の高温や、放牧された家畜、獣類などによる環境面のリスクに対して、オリーブの苗木にプラスチック製のチューブを被せる方法を採用しています。この防護策は効果があるので、継続することを決定しました。 ■

植樹のプロセス

植樹は 2010 年の 1 月の初めに開始されました。ベツレヘム地区の農業従事者を OTC のセッションに招いて、キャンペーンの活動の使命について、また、オリーブの木やキャンペーン、そして出資者に対する農業従事者たちからの期待などについて更に詳しい説明をおこないました。3 月末まで農業従事者の会合や苗木の分配、植樹がおこなわれました。植樹プロセスは、アル・マサラ (Al Masara)、 Beit・ウマル



写真： 植樹の準備が整った (JAI)

(Beit Ummar)、テク (Tequ)、アル・カデル (Al Khader)、イルタス (Irtas) などのいくつかの畑でイスラエル兵や入植者による妨害を受けましたが、最終的には提供されたすべての苗木が、OTC がターゲットとした畑に植樹されました。

現在までのところ、ベツレヘム、ヘブロン、ガザとい

ったイスラエルの占領を受けている地域周辺の 111 の畑に、10,035 本のオリーブの苗木を支障なく植樹しました。この 111 の畑の大部分は、イスラエルの軍事的占領により植樹のプロセスやインフラの制約を受けている 29 の地域に存在しています。

下表は苗木が植えられた場所を示します。

地区	場所	畑の数	植樹された苗木の本数
1. ヘブロン	ヘブロン (Hebron)	1	60
	ベイト・ウマルとサファ (Beit Ummar & Safa)	8	1750
	タルコーニア (Targoumia)	2	255
	アル・シュヨク (AL Shyoukh)	1	140
	ドウラ (Doura)	8	630
2. ラマッラ	アル・マグハエル (Al Mghayyer)	1	150
3. ガザ	アル・ザイトゥーン (Al Zaytoon) 近郊	14	900
	ラファ (Rafah)	1	100
4. ベツレヘム	ワディ・フキーン (Wadi Fukeen)	2	165
	イルタス (Irtas)	8	540
	ヤバ (Jab'a)	10	1035
	アル・カスとアル・ヌマ (Al Khas & Al Numan)	1	75
	アル・カデル (Al Khader)	18	1210
	アル・マサラ (Al Masara)	2	200
	アル・ワラヤ (Al Walajeh)	2	160
	ウム・サラモネ (Um Salamoneh)	1	125
	バティル (Battir)	1	160
	ベイト・イスカリア (Beit Iskaria)	3	400
	ベイト・ヤラ (Beit Jala)	1	100
	テク (Tequ)	3	270
	ヨレ・アル・シャマ (Joret Al Sham'a)	1	100
	フサン (Husan)	2	115
	ラカマ (Rakhama)	1	100
	アル・アサクラ (Al Asakra)	1	90
	ザタラ (Za'tara)	3	185
	ベイト・サホウル (Beit Sahour)	4	400
	ナハリン (Nahhalin)	8	330
	ヒンダザ (Hindaza)	1	120
	アル・ラシャイデ (Al Rashaydeh)	2	170
合計	29 カ所	111 畑	10,035 本

今回の植樹シーズン中に、OTC が介入して首尾よく取り組んだいくつもの事件や問題事項がありました。イスラエルがその権力によってやりたい放題に振る舞い、ガザ地区に居住する 150 万人のパレスチナ人を蹂躪してその生活や生存を不可能にしているという事実を踏まえ、オリーブの苗木の植樹をガザ地区で再び可能にしたことが OTC が辛うじて克服した課題の一つとなりました。土地を併合しようと、絶えず繰り返されるイスラエルの策謀に対抗して、自らの土地を守るアル・カデルの農業従事者たちを支援した成功事例もあります。イスラエルの謀略はまた、非難の的になっているイスラエル右派政権のベンヤミン・ネタニヤフ首相本人の言葉にも表わされました。アル・カデルや、ベツレヘム近郊のその他のパレスチナ人コミュニティから収奪した土地に建設した入植

地に対して、ネタニヤフ首相は、「イスラエル国家を構成する不可分の領土である」と言い放ちました。これらの土地はヨルダン川西岸地区内でイスラエルの占領を受けている地域にあり、その大部分が、イスラエル国民ではないパレスチナ人の農業従事者や家族によって所有されているという基本的事実を無視して、ヨルダン川西岸地区内の被占領地域にイスラエル国民が恒久的に居住するのは、明らかに国際法を侵害するものです。しかもこの地域は、ベツレヘム地区で最も肥沃な大地でもあるのです。OTC は、これまでもアル・カデルの農業従事者に対して他のどの地域よりも大規模な支援をおこなっており、将来的にもキャンペーンの活動でこれを継続するつもりです。 ■

オリーブ植樹ツアー2010

3 年目が経過し、オリーブ植樹プログラムは、オルタナティブ・ツーリズム・グループ (ATG) とジョイント・アドボカシー・イニシアチブ (JAI) によって支障なく実施されました。本年度のプログラムの成功は、多くの国からの人々のプログラムへの精力的な参加でした。参加者は学び、支援し、そしてパレスチナ人農業従事者とのつながりを意識するようになりました。本年度は、ノルウェー、オランダ、米国、フィンランド、スイス、ベルギー、フランス、ドイツ、ギリシャ、英国、および主催のパレスチナから 45 名を超える人々が集まりました。

プログラムを通じて参加者は、ヤバ (Jab'a)、 Beit Sahour)、 Beit Umar)、およびアル・カデル近郊の Beit Eskaria) といった地域の畑に 1,600 本のオリーブの苗木を植樹し、さらに各種の講座を受講して、イスラエルの軍事占領下での生活やイスラエルによってパレスチナ人に強制される隔離システムについてさらに理解を深めました。 ■

2010 年の植樹ツアーの報告書はこちら:

【JAI 報告】

<http://www.jai-pal.org/content.php?page=886>

【ATG によるビデオ】

http://www.youtube.com/watch?v=j_KJBqs55tw&NR=1



写真: 2010 年のオリーブ植樹グループ (JAI)

ガザ地区におけるオリーブの木キャンペーン(OTC)



写真：ガザ地区のアル・ザイトゥーン近郊での植樹 (JAI)

OTC は今シーズン、カザ地区で農園作業者の協力を得て、何とか 1,000 本のオリーブの苗木を植樹しました。2007 年 6 月以来のイスラエルによるガザ地区の包囲や封鎖によって、キャンペーンでは過去 2 シーズン、ガザ地区に一本の苗木も植えることができませんでした。この包囲・封鎖によって、大部分が未だ難民であるおよそ 150 万人のパレスチナ人住民が、初めて土地を追われた 1948 年の戦争以来もっとも過酷な条件下で生活を強いられています。イスラエル軍はガザを封鎖し、陸路および海路によるこの地域 (360 平方キロメートル) への人間および物資の出入りを一切禁止しています (報告書発行時点)。イスラエルは、地中海沿岸のこのちっぽけな地域 (ガザ地区) を、巧みに大規模な監獄に仕立てあげ、集団的に処罰するという明らかな犯罪に着手しているのです。

イスラエルはガザ地区に対する陸路、海路、航空路の支配権を最大限に利用して、ガザ地区において許容されること・されないことを一方的に決定して来ました。そして、オリーブの苗木を持ち込み禁止品目の長いリストの中に載せたのです。例えば、イスラエルは、ガザ地区のパレスチナ人に対する無慈悲な侵攻 (2008 年 12 月～2009 年 1 月) において 22,000 の建物を完全に、または部分的に破壊しました。それ以降、金属やセメントなど復興に必要な物資の持ち込みを、セキュリティを理由に禁止して来ました。同様の理由で、教育や健康維持、あるいは生存の

ために最低限必要なあらゆる品目の持ち込みが禁止されています。

OTC はガザ地区におけるその活動を通じて、このような残虐行為がガザ地区で日常的におこなわれ、しかも国際社会からも黙認されている (ときに受け入れられているとしか言えない) 事実が明らかにされることを願います。私たちは、オリーブの苗木の植樹を通じて、農業従事者やこのような過酷な条件下での生活を強いられている人々に、オリーブの木キャンペーンのスローガン「Keeping Hope Alive」によって、より良い未来を見つめるようメッセージを送っているのです。

今回の植樹シーズンでは、ガザ地区の二つの地域が対象になりました。その一つ、ラファ (Rafar) では一つの畑に植樹がされ、畑を持つ家族は 2003 年 3 月にラファでイスラエル軍によって殺害された米国人レーチェル・コリーさんにこの畑を捧げることを決めました。残りの畑は、アル・ザイトゥーン (Al Zaytoon) の近くにあります。この地域は、ガザ地区で 22 日間に渡って続けられたイスラエルの戦争犯罪の標的になり、悲劇の事実が明らかになった場所として知られています。その一つが、アル・サモウニ (Al Samouni) の家族 60 人の虐殺でした。

<http://www.telegraph.co.uk/news/worldnews/middleeast/israel/4143303/israel-strike-kills-upto-60-members-of-one-family.html>

OTC は、誰 (パレスチナ自治政府、ハマス、あるいはイスラエル) がガザ地区を支配するかに関わらず、ガザのパレスチナ人住民は処罰されるべきではなく、パレスチナ人に対する日常的な集団処罰は人道に対する犯罪行為であり止めされなければならないと信じています。いかなる状況下にあっても、たとえ 150 万人の人々を蹂躪してその基本的人権を否定することがイスラエルにとって安心感を得る不可欠なことだとしても、人々の苦痛を政治的な利益としてはならないのです。 ■

ベイト・ウマル、キルビット・サファ地区の場合

ベイト・ウマルは、ヨルダン川西岸地区南部のヘブロン市の北方 10km に位置するヘブロン郡の街です。街はヘブロンとエルサレムの間のバイパス道路 (60 号線) 上にあり、ヘブロン郡の北側の入り口とみなされています。ベイト・ウマルの人口は、パレスチナ人が 13,548 人で、60%が農業に従事しています。街は 1967 年の戦争以来、イスラエルによる占領と入植に苦しめられてきました。イスラエルによるユダヤ人のための入植地 5 カ所が、街から収奪した土地に建設されました。その一つが、街や土地や農業従事者を絶えず攻撃するシオニストの拠点として知られるバット・アーイン (Bat Ayin) 入植地です。ベイト・ウマルとキルビット・サファでの事件については、たくさんの調査がおこなわれ多くの報告書が作成されています。

報告書はこちら:

http://www.poica.org/editor/case_studies/view.php?recordID=2021

2009 年 7 月、バット・アーインの入植者たちがキルビット・サファの約 150 ドゥナム (約 15 万平方メートル) の土地に火をつけました。燃え盛る炎が土地を台無しにしている間、現場にいたイスラエル人入植者たちは、この行為に喝采しました。案の定パレスチナ消防隊の車両は、「当該地域はイスラエルの管轄下にある」というイスラエル軍の主張により、現場に到着するのを阻止されました。火事による損害ははなはだしく、大量の葡萄やパイナップル、プラム、イチジクその他の樹木が焼かれました。さらに忘れてはならないのは、ヨルダン川西岸地区に展開する多くのイスラエル人入植者は、大抵、乾燥した暑い夏にパレスチナ人の土地を焼き討ちするということです。この季節が最大の被害をもたらすことができるからです。

OTC は、被害を蒙った地域を何度も訪れ、農業従事者や土地の所有者と面会しました。現地での見積もりによれば、農業従事者の再起を支援するためには、最大で 3,000 本の樹木が必要でした。私たちは、

今シーズン、現地に植樹用の苗木 1,500 本を供給することを約束し、また次回の植樹シーズンにも同数の苗木を提供することを計画しています。その地域での植樹プロセスは、ベイト・ウマルやキルビット・サファの農業従事者や土地所有者と密接に連携した、「パレスチナ連帯プロジェクト (Palestine Solidarity Project)」というコミュニティ・グループと共働でおこなわれました。焼かれた地域での植樹期間中に、イスラエル軍は農業従事者を当該地域から追い出したり、ボランティアの人々を逮捕したりして植樹を妨害しましたが、最終的にはすべての苗木を 3 日間で植え終わりました。

その後、2010 年 1 月 28 日になると、植樹された地域はイスラエルの領土であり、苗木は引き抜かれなければならない旨の軍令をイスラエル軍が発しました。この軍令は、拡大し続けるバット・アーインの入植地にゆくゆくはこの地域を加えてしまおうという土地収奪のための新たな謀略でした。自らの土地に植樹をすることによって、農業従事者たちは辛うじてこの謀略を暴き、これを止めさせ、土地の所有権を守ることができました。 ■



写真: 植樹された地域がイスラエル領であることを示す、イスラエル軍が発行した地図 (ベイト・ウマル地区)

オリーブの木キャンペーンの出資者

JAI の年次計画の一つとして、OTC で 8,000 本のオリーブの苗木を植樹すると同時に、新たに 350 人の出資者を募る計画です。前述のとおり、OTC では 10,035 本の苗木を植樹し、このうち 8,471 本はこのキャンペーンに参加した 1,203 人の友人、協力者、および新たな出資者からの資金協力によるものでした。これ以外の植樹された残り 1,564 本の苗木は、匿名の寄付者や為替差益、あるいは JAI が色々な種苗業者から購入したものです。

JAI は、このキャンペーンがアドボカシーのための優れた方法であり、より多くの人々に参加を促すことができると考えている支援者を、2009 年度は1年を通じて受け入れました。また、オリーブの収穫プログラムや植樹プログラムでの実作業だけでなく、キャンペーンへの人々の継続的な協力が実を結び、世界中で出資者の増加がみられました。

下表は、OTC の 8 回目のシーズンでの出資者と苗木の数を示します。 ■

国名	苗木の本数	出資者の数
ベルギー	4	4+
カナダ	10	8+
デンマーク	1010	29+
ドイツ	700	18+
アイルランド	2313	3+
日本	151	68+
オランダ	2097	651+
ノルウェー	43	32+
スイス	46	39+
スウェーデン	7	5+
英国	404	142+
米国	1583	146+
その他*	103	58+
合計	8471	1203 +

注：「+」は1本の苗木が複数の人から出資された場合を示します。

「その他*」は、オーストラリア、バングラデシュ、ベルギー、カナダ、コンゴ共和国、フィンランド、フランス、ギリシャ、香港、インド、パレスチナ、アラブ首長国連邦、ペルー、フィリピン、スロベニア、南アフリカ、韓国、スペイン、台湾、トリニダード・トバゴなどの出資者、および国名を告知しなかった出資者を含みます。

写真： OTC の出資者と記念プレート (JAI)



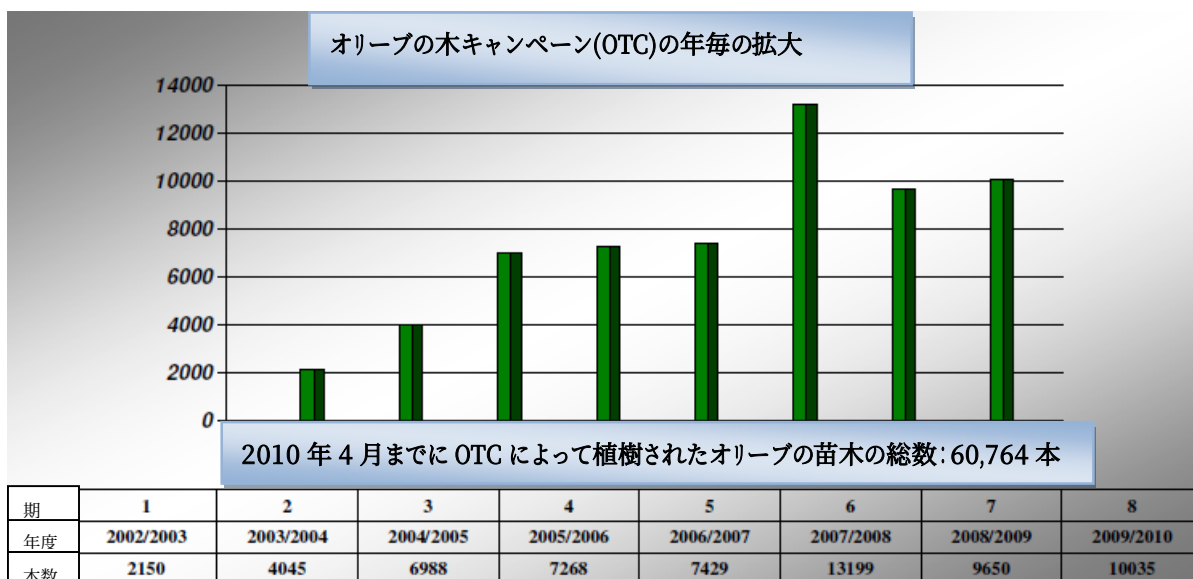
キャンペーンの拡大

2009 年度、OTC はパレスチナに新たに 8,000 本のオリーブの苗木を植樹することを計画しました。可能な限りたくさんの参加者や出資者を得ることを目指した取り組みは、世界中の人々の賛同と協力を生み出し、私たちは計画よりも多くの苗木を植樹することができました。2009 年度に植樹された苗木の総数は 10,035 本に達し、占領下にあるヨルダン川西岸地区およびガザ地区全域にキャンペーンを通じて植

樹された苗木の総数は、活動開始から数えて 60,764 本になりました。

また、本年度、キャンペーンに参加した出資者は、30 カ国を超える約 1,203 人にのぼり、昨シーズンに比べて約 157 人増えています。

下表は、過去 8 シーズンに植樹された苗木の数を示します。 ■



オリーブ収穫ツアー2009

ジョイント・アドボカシー・イニシアチブ (JAI) とオルタナティブ・ツーリズム・グループ (ATG) は、2009 年 10 月 17 日から 26 日の日程で「第 6 回パレスチナオリーブ収穫ツアー2009」を計画しました。多くの力と努力により、この農業イベントはパレスチナ経済に特別な重要性を持ちます。

オリーブ収穫作業は、バイト・ヤラ、ヤバア (Jaba'a)、アル・カデル、ナハリン (Nahhalin)、アル・ワラヤ (Al-Walaja)、ベツレヘム地域のワド・ラハル (Wad Rahhal) などの 15 カ所の畑で実施されました。オリーブの収穫に加えて、プログラムでは組織の説

明やパレスチナのおかれた現状、あるいは隔離壁の影響などに関する基礎講演を実施しました。

講演は次の機関が担当しました。

- エルサレム応用研究所 [Applied Research Institute Jerusalem (ARIJ)]：隔離壁と土地の接収について
- 反家屋破壊イスラエル委員会 [Israeli Committee Against House Demolitions (ICAH)]：入植と破壊された家屋に関するエルサレム巡回ツアー
- ヘブロン復興委員会 [Hebron Rehabilitation

Committee (HRC)]: ヘブロンが抱える特有の状況について

- ・ パレスチナ人の居住権と難民の人権のためのバディル資料センター[BADIL Resource Center for Palestinian Residency and Refugees' Rights]: 難民問題

18の国々からの100人を超える参加者が、3つのグループに分かれて行動しました。ツアーでは次の市街地、および団体や聖地を訪問しました。

ベツレヘム、エルサレム、ヘブロン旧市街のほか、オリーブ搾汁共同組合、イブラヒム・モスク、アル・アクサ・モスク、聖墳墓教会、生誕教会など。

参加者の感想はこちら:

<http://www.jai-pal.org/content.php?page=874>

プログラムの写真はこちら:

<http://www.jai-pal.org/gallery/thumbnails.php?album=50> ■



オリーブの木キャンペーンの直接的／間接的な受益者

OTC は、パレスチナのみならず、世界中の人々に利益をもたらしています。

- 1- オリーブの木の出資者、JAI の友人や協力者
OTC の活動に関わる人々は、ますます世界に広がりを見せる、「正義に基づく平和」を聖地で実現する人々でもあるからです。
- 2- オリーブ収穫や植樹プログラムへの参加者
- 3- JAI
JAI は、友人、協力者、出資者および受益者による地域ネットワークと国際ネットワークの拡大によって成果を得ています。
- 4- YMCA および YWCA
このキャンペーンが「正義に基づく平和」を実現する運動を進める直接的なツールとなっています。
- 5- 農業従事者と土地所有者
継続する占領下での生活の様子を、キャンペーンを通じて広く知らせることができるだけでなく、

植樹によって直接的な恩恵も得ています。キャンペーンは主に、軍事的占領によるさまざまな形の迫害によって、その土地や生活に直接的影響を受けている農業従事者に焦点をあてています。

- 6- 植樹に関わる労働者、運輸業者、農園作業者
その他大勢の個人
- 7- オリーブの苗木を販売する種苗業者
- 8- 植樹されたコミュニティ

OTC は、ヨルダン川西岸地区の 27 のコミュニティとガザ地区の 2 つのコミュニティに植樹する計画を立てました。これらのコミュニティの土地は隔離壁で隔たれており、入植地に隣接していて、軍令やその他の命令による接収の脅威に曝されています。これらのコミュニティは、苗木の供給から、そして日々の生活における迫害や不正義を明かにできることから、キャンペーンの恩恵を受けていると考えています。 ■

- - - - -

課題

現場には、JAI が次回の植樹シーズンを支障なく実施するために克服しなければならない多くの課題が残っています。これらの課題のうち、ここでは以下についてご報告します。

- 1- ガザ地区の封鎖は、キャンペーンによって供給されるオリーブの苗木のほか、農耕用チューブや灌漑用配管のような他の必需品の輸送を不可能にしています。幸運にも、ガザ地区の私たちの友人が封鎖された地区内に種苗業者を見つけ、1,000 本の苗木を購入して植樹することができました。ガザ地区での私たち活動は、ガザ農耕事業委員会連合 (Union of Agriculture Work Committees in Gaza) の友人たちの支援の下におこなわれているということを、ぜひお知らせしておきたいと思います。ガザ地区の封鎖は、この地

区のあらゆる物価を高騰させました。ガザ地区でのオリーブの苗木の価格は、ヨルダン川西岸地区で購入する苗木の 4 倍から 5 倍です。それにもかかわらず、OTC は何とか当初計画した 1,000 本の苗木を植樹することができました。

- 2- 入植者による攻撃やヨルダン川西岸地区におけるイスラエル軍の存在は、植樹期間中、農業従事者たちを絶えず悩ませました。それにもかかわらず、農業従事者や土地所有者あるいはボランティアたちは、嫌がらせを受けているすべての場所で植樹を成功させました。入植者による攻撃の増大、特に入植者がパレスチナ人所有地の広い区域を焼き討ちするようになったことは、キャンペーンにとって大きな障害です。しかし、キャンペーンは、これらの樹木を失った人々を生産

的な方法で援助することができるのです。

- 3- ヨルダン川西岸地区で対象としている地域での、オリーブの苗木の申し込みが多いことは嬉しくも大きな課題です。キャンペーンで地域へのサービスが増大したことが、自分の土地へも植樹をしてほしい、あるいはキャンペーンの対象になるために事情を聞いてもらいたいと思っている多くの農業従事者や土地所有者たちを行動に駆り立てています。キャンペーンは、単に潜在的受益者のすべての必要を満たすことはできないと言って、これを片付けてしまうのではなく、将来の植樹に向けて、キャンペーンの基準に適合するすべての農業従事者の土地の記録を保管してい

ます。

- 4- ヨルダン川西岸地区でのイスラエル軍による日々の行為には、移動の制限、水の供給不足と停止、農道の破壊、道路へのアクセスの妨害などがあり、さらにどこでも見られる入植者による蛮行は、ヨルダン川西岸地区のパレスチナ人の生命・財産を支配するイスラエルによる占領が背景にあります。
- 5- ヨルダン川西岸地区内でのパレスチナ人の移動制限と併せて、エルサレムをイスラエルに併合する動きは、サルフィットやナブルスその他の窮乏状態にある地域へより多くの支援をおこなうことを困難にしました。

将来の行事と計画

イスラエルによるパレスチナ人への人種差別と迫害が終結することに対し、期待が膨らんでいるこの時期に、私たちは友人や協力者、出資者に OTC を引き続き活用するよう呼びかけます。”Keep Hope Alive” をスローガンとするこのキャンペーンは、有効なアドボカシーの方法であり、またパレスチナの人々との連帯手段です。より多くの行事や講演、抗議活動、募金、ドキュメンタリーの上映、教育講座などが必要です。JAI はキャンペーンを活用して積極的にパレスチナの平和と正義を訴え続けるすべての友人、協力者、出資者の皆様に、喜んで資料やアイデアを提供します。

さらに、パレスチナを訪れることは、目から鱗の体

験をそれぞれが住むコミュニティへ持ち帰ることで、何にも増して建設的で有益なものとなります。OTC は、年度毎のオリーブ収穫と植樹ツアーを継続して実施するつもりです。さまざまな年齢、信仰、経験を持つ世界中の人々がこれらのツアーに参加されることを願います。私たちの活動に参加し、世界に広めてください。

- ・ オリーブ収穫ツアー:2010 年 10 月 16 日～25 日
<http://www.jai-pal.org/content.php?page=811>
- ・ オリーブ植樹ツアー:2011 年 2 月
<http://www.jai-pal.org/content.php?page=886>



Olive Tree Campaign
The Eighth season 2009-2010

オリーブの木キャンペーン
第8期 (2009年—2010年) 報告

翻訳協力 後藤幸男

2010年9月発行

日本語版発行 日本YWCA

編集 日本YWCA (国際事業部門)

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-8-11

東京YWCA 会館302号室

TEL:03-3292-6121 FAX:03-3292-6122

E-mail: office-japan@ywca.or.jp
